

特集

ボトラーから見た ガラスびんの3R

ボトラー正会員各社を対象に、
ガラスびんの3Rに関する
アンケートを実施。

各主体における“ガラスびんの3R”の取組事例を
「びんのリサイクル通信」で紹介してきました。

地球温暖化の軽減に向けた取組みが一層重要となってきている中、当促進協議会では、従来から“ガラスびんの3Rを推進することで、環境負荷の軽減を図る”取組みを推進していますが、PRや普及啓発活動の一環として、「びんのリサイクル通信」でも、3R(リデュース・リユース・リサイクル)をテーマとした特集記事を掲載してきました。

本「18号」までに掲載した3Rに関する主な記事の内容は、以下のようになります。

- 【リデュース】:中身メーカー(ボトラー)の「軽量びん」採用の取組み・ガラスびんメーカーの軽量化技術の取組み・カレット商の品質向上への取組み
- 【リユース】:大手量販店のリユースモデル事業・自治体やびん商のリターナブルびん回収の取組み・九州地区焼酎メーカーや地サイダーメーカーのリターナブルびん採用の取組み・商店街のリターナブルびん入り製品の拡販に向けた取組み
また、本年2月に開設し、「17号」でもご紹介した『リターナブルびんポータルサイト』には、経済産業省・消費者団体他から応援メッセージが寄せられました。
- 【リサイクル】:自治体のあきびん回収取組みの優良事例・ガラス工房のあきびんを利用したガラス工芸品・自治体資源化センターの最新事例・他用途事業者のその他色カレットの利用事例

これらの他に、【ガラスびんの3R推進のための自主行動計画】や【3Rのためのガラス容器自主設計ガイドライン】を発表し、【3Rの取組み】には、経済産業省・大学・自治体・NPO他から応援メッセージをいただきました。

“ガラスびんの3R”を推進するためには、
中身メーカー(ボトラー)との連携が不可欠!

ボトラーの記事を掲載するのは、「6号(2005年6月発行)」以来となりますが、今回は、“ガラスびんの3R”を推進していく上で重要な主体であるボトラー各社に、“ガラスびんの3R取組状況を聞く”をテーマとしたアンケートをお願いしました。

26社からご回答をいただき、ありがとうございました。

環境問題がクローズアップされている今日、くり返し使用できるリターナブルびんの“環境負荷を軽減する”優位性が言われながら、他方では、回収がスムーズに行かない問題点や、生活様式の変化から、いろいろな商品でワンウェイ化が進み、ガラスびんでは自治体の混合回収が多く、カレットの確保がタイトになっている問題点等、いろいろな課題を抱えています。

当促進協議会は、今回ボトラー各社からいただいたアンケートの回答や意見を参考にして、ガラスびん入り製品の需要拡大やリサイクルの普及に向け、“ガラスびんの3R”を一層推進させてまいります。

また、次号「19号(2009年12月発行)」では、同じテーマ“ガラスびんの3Rの取組状況を聞く”で、ボトラーの座談会を予定しています。

■アンケートに回答いただいた方の所属部署の内訳

マーケティング	3	研究開発	1
広報	1	商品開発	1
CSR	5	製造部	1
生産本部	1	業務部	3
資材・購買・調達	7	品質	1
環境推進	3	その他	1

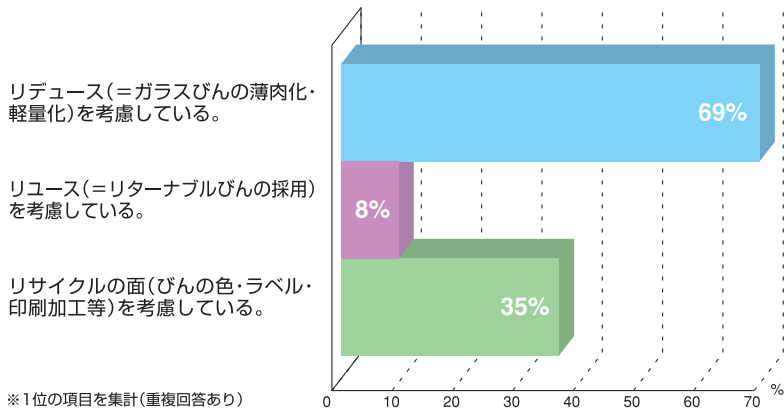
※同じ様な職務内容と思われる部署は、まとめています。
※兼任と思われる方は、それぞれの部署で数えています。



ガラスびん3Rの取組状況

※コメントの中に、びん・壺・瓶の言葉が使われていますが、すべて「びん」に統一させて頂きました。

Q1 製品開発時に、ガラスびん3Rの優先順位は、どの順で考慮されますか？

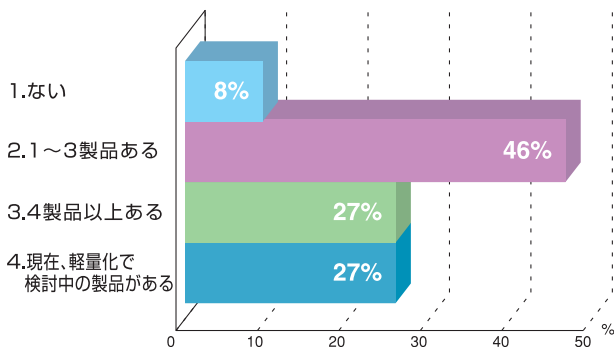


コメント

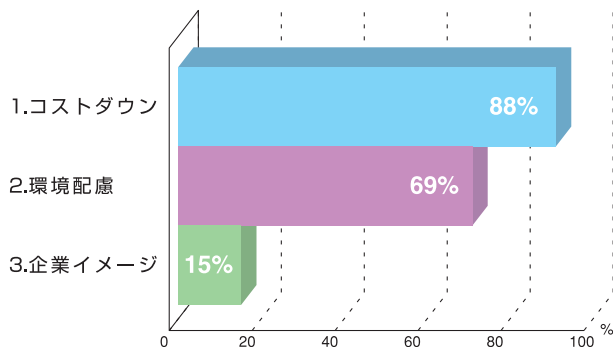
- リデュースは、製品コストの面と運送時のCO₂削減にも有効であるため優先している。回収ルートが確立しておらず、リユースの面では、リターナブルびんを使用しての製品の品質の担保が難しいので行っていない。
- 全て重要であると考えます。

Q2 リデュースについて、お聞かせ下さい(複数回答可)

① 現在、販売されている製品に、リデュース(軽量化)に取り組んだ製品はありますか？



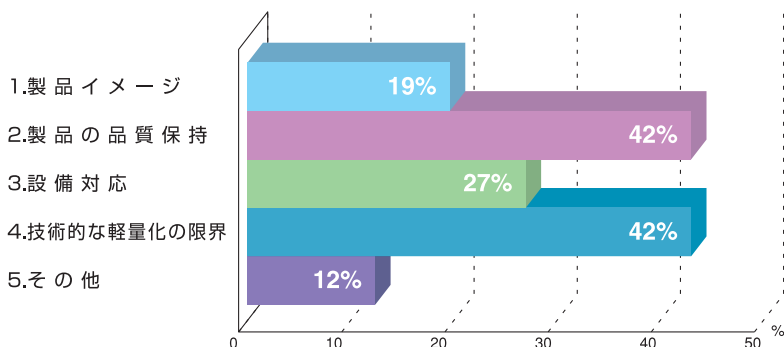
② 新製品開発などで、軽量化を考慮される場合、主な目的は何ですか？



コメント

- CO₂の削減、コストダウン等、今後、企業は積極的に取組まなければならないと思います。
- 軽量化を実施。びんメーカーとの検討は行なっている。

Q3 リデュース(軽量化)できない場合、その阻害要因は何ですか?(複数回答可)



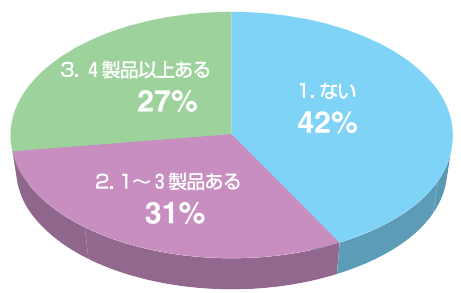
コメント

- 一般びん以外に求めると留め型になり、ロットが大きくなる。当社は、昭和60年代に特殊強化ガラスを採用した実績がある。
- コンペア上でのびんの転倒率が高くなる。
- 自動販売機による販売がメインになりますので、軽量化の前に、強度を担保する事が必須条件となります。
- 費用対効果の問題

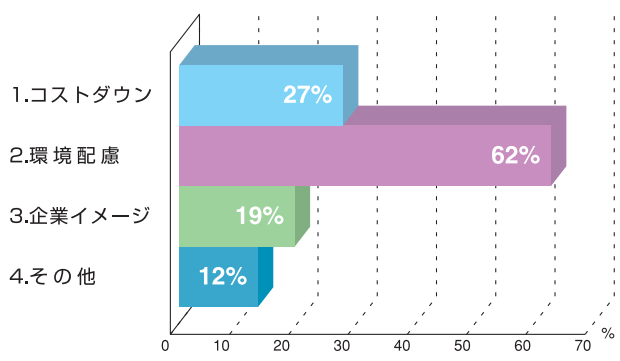


Q4 リユースについて、お聞かせ下さい(複数回答可)

① 現在、販売されている製品に、リユース(リターナブルびん)に取組んだ製品はありますか?



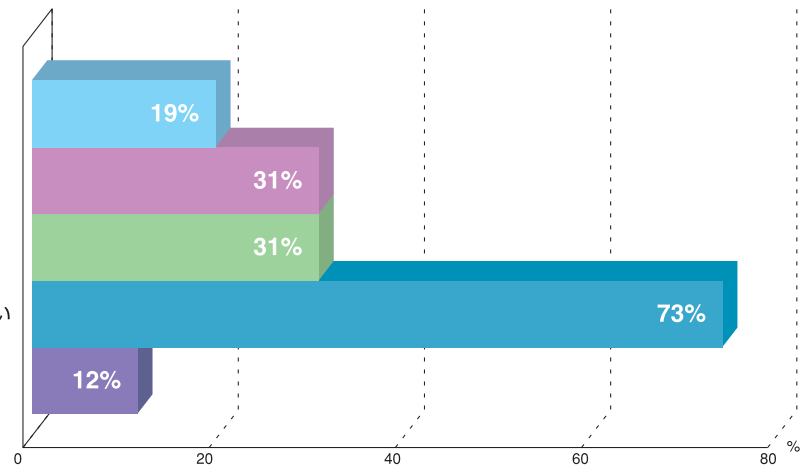
② 新製品開発などで、リターナブルびんを考慮される場合、主な目的は何ですか?



コメント ● 丸正びんは多数あるため、カウントしていないが、4製品以上ある。

Q5 リターナブルびんを採用できない場合、その阻害要因は何ですか?(複数回答可)

- 1. 製品イメージ
- 2. 設備投資
- 3. コスト
- 4. あきびんの回収ルートがない
- 5. その他



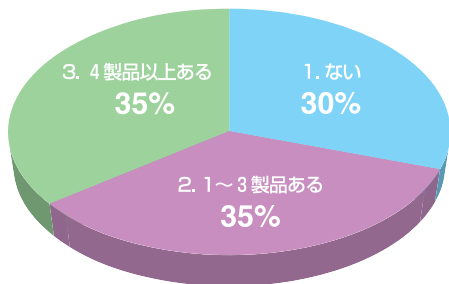
コメント

- 将来的に回収ルートがなくなる可能性がある。ネジ栓口のリターナブルびんは、欠け等の品質面での不安がある。
- R 300mlびんでも、他の300 mlびんより少し価格面でも、回収ルートも無く、Rびん採用とつたえない面がる。
- 自動販売機による無人販売が基本です。配送、回収に関するコスト、製品重量増による従業員の負担を考慮し、ガラスびんよりもPET・缶製品を優先しています。
- 製品の品質保証
- リユースする場合の課題…「びんの強度を確保するために、びんの重量化」「搬送時の環境負荷の増加(重量増加、空びん回収)」「回収したびんのアルカリ洗浄」「回収ルートの構築」「びんを傷つけないために、プラスチックケースによる販売・回収」「製品の品質保証」
- 検査が煩雑になるため。また回収ルートの構築をしなければならない。
- びん口がネジ形状のびんを多く使用しているが、ネジ形状の場合、リターナブル時にびん口に欠けなどが発生しやすく、品質上不安が多い。また、カビなどのびん内異物のクレームも懸念される。

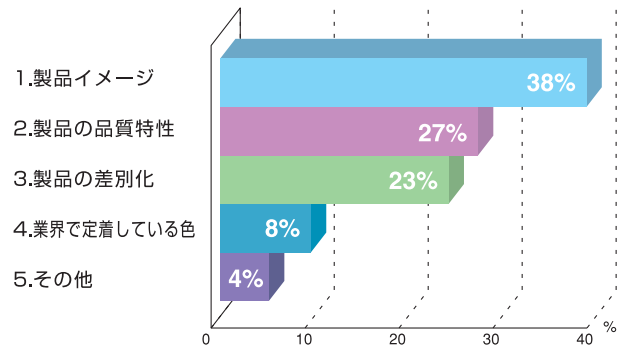
特集 ボトラーから見たガラスびんの3R

Q6 リサイクルについて、お聞かせ下さい(複数回答可)

① 現在、販売されている製品に、その他の色(無色・茶色以外)の製品がありますか?



② 「その他の色」を採用されている主な理由は何ですか?

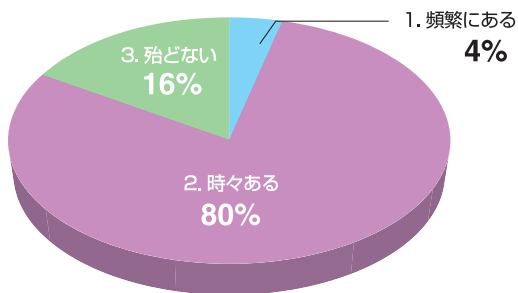


コメント

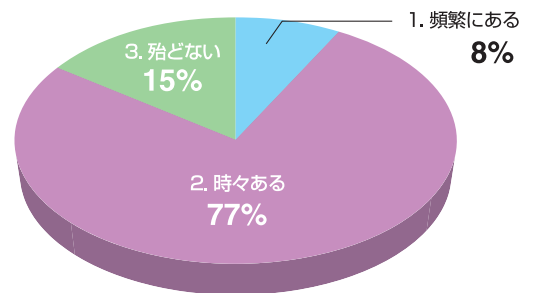
- 商品のイメージ等、新製品は難しく、色付びんの採用になるケースも多々あります。
- 嗜好品はデザイン重視の傾向がある。
- 輸入製品(ワイン他)や一部清酒などにある。

Q7 びんメーカーから、3Rについての提案やニュースの提供がありますか?

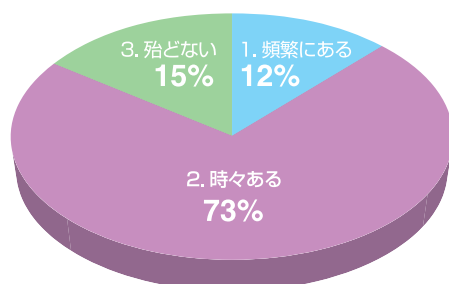
① 軽量化の提案



② 環境負荷を軽減する提案



③ 3Rやリサイクルニュースについての情報提供



コメント

- 当社から要望を出すこともある。

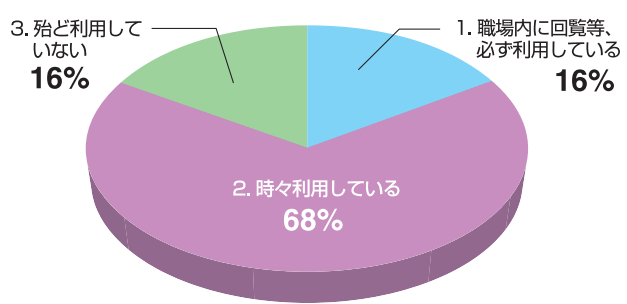


Q8 「ガラスびんの3R」について、びんメーカーに要望されることがありましたら、ご記入下さい。

コメント ● 効果の波及が大きいリデュースの推進をしていただきたい。

当促進協議会への要望等

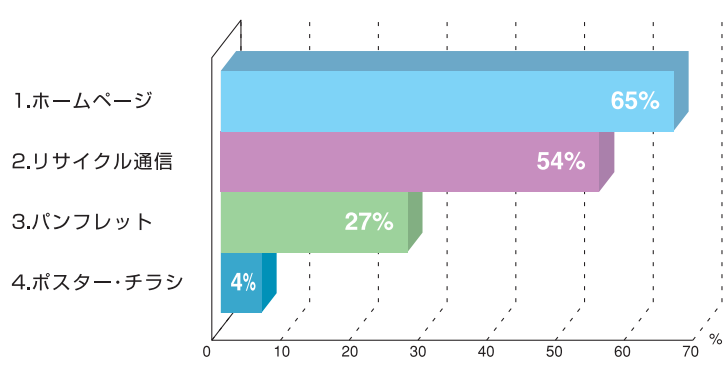
Q9 毎月1回、「ガラスびん3Rニュース」をメールでお送りしていますが、どの程度、利用されますか？



コメント

- 当社から、リサイクルびん（ペンギンマーク）について、事務局に問合せて案内したが、商品化の予定がないと断られた。見本を送ってきたので検討していて、その後ちょうどそのびんに見合った商品を思いつき電話をした所、見本を送ったがその後全く話をつめておらず、自分でメーカーに相談して欲しいという回答であった。
- いつも情報をありがとうございます。商談の時などに役立ちます。
- 部署内で回覧している。

Q10 当促進協議会がご提供する「広報ツール」で、利用されるものは何ですか？（複数回答可）



コメント

- お客様からのお問い合わせで、「回収に出す時には、ラベルをはがさないといけないの？」というものが時々あり、HPのQ&Aを活用させていただいています。エコロジーボトルの定義がびんメーカーのものとは異なるので、統一をお願いします。
- PDFでの情報が充実しているから。リンクもしやすい。

第13回通常総会を開催。事業報告・決算報告ならびに事業計画・収支予算が承認されました。

去る6月18日、東商スカイルーム(東京商工会議所ビル8階)において、ガラスびんリサイクル促進協議会第13回通常総会が開催され、平成20年度事業報告(案)・決算報告(案)と平成21年度事業計画(案)・収支予算(案)が説明、審議され、いずれも承認されました。

また新会長には山村幸治(日本山村硝子株式会社 代表取締役社長)、新副会長には堤俊彦(日本耐酸壘工業株式会社 代表取締役社長)が就任いたしました。



■ 平成21年度事業計画 ■

1. Reduce対策

軽量化事例集を作成し、ガラスびんを使用する企業に向けて情報公開を行う。合わせて、有識者や消費者団体への広報も実施する。

2. Reuse対策

- ①リターナブルびんの活性化に向けて中期対策
- ②リターナブルびんポータルサイトの維持・拡大策の実施
- ③量販店市場におけるリターナブルびん商品の取扱い等について
主要な量販店・びん商連合会と研究会を立ち上げる。
- ④家庭から発生するビールびんや1.8Lびんのあきびんの「一般酒販店」への返却を促進
- ⑤Rマークびんと丸正びんの研究会に参画
- ⑥1.8L再利用事業者協議会のデータ収集の迅速化

3. Recycle対策

- ①化粧品びん分別収集促進策の展開
- ②びん混合収集自治体の明確化と対応策の展開
- ③カレット利用率の定義の見直し
- ④3R啓発メッセージとシンボルマークの開発と普及
- ⑤カーボンフットプリント研究会への参画

4. 広報対策

- ①ホームページの抜本的改善の実施
- ②総合パンフレットの作成
- ③びんのリサイクル通信の定期発行と戦略的配布
- ④エコプロダクツ2009などのイベントで、直接広報活動を実施
- ⑤ガラスびん3R説明キットの自治体リサイクルプラザへの展開

5. 平成21年度組織体制

- ①部会体制とメンバー構成を見直し、本年度も、部会長連絡会・リサイクル部会・広報部会を継続。リターナブル部会を再開し、3R推進部会は閉会する。
- ②新規会員獲得・3R啓発メッセージ・カレット利用率検討・単独収集推進・リターナブルびんシンポジウム・量販市場研究の6プロジェクトを新設



〒105-0004 東京都港区新橋2-12-15 田中田村町ビル8階

TEL.03-3507-7191 FAX.03-3507-7193

<http://www.glass-recycle-as.gr.jp>

■ 発行人 ガラスびんリサイクル促進協議会 理事・事務局長 木野 正則

ガラスびんの3Rを推進し、
環境負荷の軽減に貢献してまいります。

ガラスびんリサイクル促進協議会
会長 山村幸治



この度、第13回通常総会(6月18日開催)にて、会長に選出されました山村でございます。就任にあたりまして、ひと言ご挨拶を申し上げます。

当促進協議会は、その前身であるガラスびんリサイクリング推進連合(昭和59年11月設立)から数え、本年度で25年目を迎えます。発足当時と比べ、環境に対する消費者、自治体、企業の意識や対応も大きく進歩し、特に、リサイクルについては各主体とも熱心に取組まれ、その成果は目覚ましいものがあるといえます。

ご承知のとおり、本年6月、地球温暖化防止に向けた数値目標(2020年の温暖化ガス排出量を2005年比15%削減)が設定され、今後、各主体にはより一層具体的な取組みが求められるようになってまいります。当促進協議会は、これらの要請に対し「これまで以上にガラスびんの3Rを推進し、環境負荷の軽減を図る」事で貢献してまいりたいと考えております。平成21年度の事業計画につきましては、本「18号」に詳細を記載させて戴いておりますが、(財)日本容器包装リサイクル協会をはじめ、会員各社のご協力を得ながら、それぞれの課題に取組んでまいりたいと考えておりますので、宜しくご協力をお願い申し上げます。

「化粧品びんリサイクル」の2年目の取組状況を調査するため、全国の自治体に再度アンケートを実施。

昨年4月から開始しました「化粧品びんリサイクル」を推進するため、(財)日本容器包装リサイクル協会と連携して、全国自治体に向けPRを実施してきました。当促進協議会では、2年目の取組状況を把握するため、昨年に引き続き、全国1,810の自治体を対象に葉書回答形式のアンケートを実施し、1,347の自治体から回答(回答率74.4%)がありました。平成21年4月の時点で、すでに実施している自治体と実施予定の自治体の合計数は529件(回答数比39.3%)で、昨年より131件アップしています。

今後は今回のアンケート結果をもとに、さらに「化粧品びんリサイクル」の取組みが進むよう、全国の自治体に働き掛けてまいります。

■ 「化粧品びんリサイクル」についてのアンケート

